

令和2年12月 大槌町議会定例会

行政報告

令和2年12月4日

大 槌 町

本日、ここに令和2年12月大槌町議会定例会の開会にあたり、9月定例会以降における町政運営について、ご報告を申し上げます。

1 はじめに

本年7月29日、岩手県内で新型コロナウイルス感染症の感染者が確認されて以来、県内の感染者数は200人を超えており、釜石保健所管内においても発症が確認されたところであります。

町民の皆様には、手洗いとマスクの着用、3密を避けるなど、一人ひとりが意識を高くもって感染症対策に取り組んでいただきますよう改めてお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症緊急対策事業につきましては、感染症の影響を受けている事業者支援を目的とした「事業継続支援金」及び「水産業緊急支援補助金」と併せ、「地域商品券」等による町内経済の好循環を図るための取り組みや、避難所運営と設備の見直しなど、災害発生時の感染症対策にも取り組んできたところであります。

また、教育環境においては、児童・生徒向け1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する「GIGAスクール構想」のもと、新たな学習環境の充実を図るとともに、遠く離れた地で学習に励んでいる当町出身の学生に特産品等を送って応援する「ふるさと応援大槌便」などの事業を実施したところあります。

さらに、本定例会の補正予算では、外食産業の低迷により、米や仔牛等の販売単価が下落していることから、農業者に対する緊急支援策等についてもご提案させていただくこととしております。

今後も町民生活の状況に注視するとともに、町内の生産者や事業者に寄り添い、国・県の動向及び関係団体や金融機関等からのご意見を踏まえながら経済支援策等を講じてまいります。

2 大阪府富田林市との連携協力に関する基本協定の締結について

次に、大阪府富田林市との連携協力に関する基本協定の締結について申し上げます。

大阪府富田林市の皆様からは震災直後より、物資及び給水支援、多くのご寄附、そして、平成23年から平成27年にかけては4名の職員を派遣していただくなど、これまで物心両面からご支援をいただいております。

また、消防団同士の交流や、「奇跡の復興米」の栽培を通じた交流など、これまで紡いできた絆をより一層強固にすることを目的に、去る11月29日、富田林市と連携協力に関する基本協定を締結しました。

今後は、両市町のPRと住民相互の交流、防災や産業振興等について、具体的な取り組みに着手してまいります。

3 第 21 回国勢調査について

次に、第 21 回国勢調査について申し上げます。

本年 10 月 1 日を基準日とした全国一斉の国勢調査は、これまで国から任命を受けた 70 名の調査員と、13 名の指導員で進めてまいりました。

調査員並びに指導員の皆様には、新型コロナウイルス感染症の対策をした上で、調査票の各戸配布や回収業務、審査にご尽力いただきましたことを心から感謝申し上げます。

なお、調査票は、去る 11 月 30 日に県へ提出しており、国による国勢調査の結果公表は、これまでの新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた調査期間の延期措置等に伴い、速報が 4 ヶ月延期し、来年 6 月の公表予定となっております。

4 定住自立圏ビジョンについて

次に、定住自立圏ビジョンについて申し上げます。

平成 30 年 3 月 20 日に釜石市との間で締結した「定住自立圏形成協定」の具体的なビジョンを推進するため、去る 10 月 1 日、「釜石・大槌定住自立圏共生ビジョン懇談会」を釜石市で開催し、各分野の代表者を交えた意見交換を行いました。

懇談会では、両市町が連携して取り組む「圏域ビジョン」における医療・福祉政策をはじめ、結びつきやネットワークの強化に関する地域公共交通政策や

圏域マネジメント能力の強化に関する政策など全 15 事業に加え、新型コロナウイルス感染症の影響や対応状況、県立釜石病院の建替え整備に関する取り組みなどについて具体的な意見交換を行ったところであります。

今後につきましても、両市町の連携を強め、圏域ビジョンの実現に向けた取り組みを進めてまいります。

5 各分野の取り組み方針

【協働によるまちづくり】

(地域コミュニティの推進)

次に、地域コミュニティの推進について申し上げます。

去る 11 月 26 日、本年度第 1 回目となるコミュニティ協議会を開催したところであります。

東日本大震災津波から 10 年が経過しようとする節目にあたり、一般町民や支援団体の方々 60 名の出席を得て、感染症予防に十分留意しながら、これまでにおけるコミュニティの再生及び醸成に向けた取り組みを振り返る活発な議論が交わされました。

町民・団体の皆様の活動により得られた成果と課題を、第 9 次大槌町総合計画に掲げる「協働による地域・まちづくり」に継承すべく、今後も感染症対策をしっかりと行いながら、このような意見交換の場を積極的に設けてまいります。

【産業・観光】

(魅力ある一次産業の振興)

次に、魅力ある一次産業の振興について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、生産物の出荷に大きな影響を与えており、今後も予断を許さない状況が続くものと認識しております。特にも外食産業の低迷が単価下落という形で影響を与えていることから、引き続き、市場の動向を注視しながら、花巻農業協同組合、釜石地方森林組合及び新おおつち漁業協同組合と連携してまいり所存です。

本年度の主な農林水産物の状況につきましては、市場単価が高く推移したピーマンは、JA花巻全域で売上金額5億円を超える見込みであり、大槌鹿肉もインターネット販売が好調であることから、出荷量は約2トンを見込んでいます。原木しいたけは、新山より約4,600本のほだ木を搬出し、生産者とともに産地復活に向けた取り組みを進めているところであります。

また、新たな取り組みである魚類養殖については、最終的にギンザケ47トン、トラウト38トンの水揚げとなり、去る11月2日からは、2期目の海上養殖が開始されたところであります。一方、シロサケについては、本県への来遊量が低調であることから、本年度の大槌魚市場への水揚げは10トン未満になる見込みです。これは、前年の35%、震災前である平成22年の10%の水揚げとなっており、稚魚放流においても危機的な状況にあることから、必要な種卵確保に向けた支援策を講じてまいります。

なお、モニタリング調査を進めている磯焼け対策につきましては、事業成果の蓄積が進んでいることから、藻場の再生及び駆除対象ウニの付加価値向上に引き続き取り組んでまいります。

(大槌ならではの観光物産戦略の展開)

次に、大槌ならではの観光物産戦略の展開について申し上げます。

岩手県花巻市出身の児童文学作家・柏葉幸子さんの小説「岬のマヨイガ」が、当町や遠野市などを舞台にアニメーション映画化され、来年夏に公開されることが株式会社フジテレビジョンから発表されました。

この映画化に伴うアニメファンによる聖地巡礼など、様々なきっかけで大槌ファンになっていただくよう、公開に向けた具体的なPR方法等についての検討を進めるとともに、県や舞台となる自治体との連携を図ってまいります。

(中心市街地の活性化)

次に、中心市街地の活性化について申し上げます。

福幸きらり商店街の跡地利用につきましては、町民の皆様からのご意見を反映し、地域の現状や課題、住民、利用者のニーズに沿った整備を総合的に検討するため、去る11月12日に各分野の有識者や一般公募により選定された方々で構成される12名の「福幸きらり商店街跡地利活用事業検討委員会」を設置したところであります。

今後は、跡地利用に関する意見を幅広く聴取するため、広報や町ホームページ等で意見を募集し、本委員会において利活用事業の基本構想について検討を進めてまいります。

(移住・定住策の取り組み)

次に、移住・定住策の取り組みについて申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、首都圏での移住・定住策のPR活動が困難であることから、県や各市町村と連携し、去る11月8日から14日までの期間、インターネット上において、町の魅力とUIターン者向けの助成制度や住宅に関する支援制度の紹介、オンラインによる相談会を実施したところであります。

また、去る11月21日には、いわて移住・交流促進連絡協議会が主催する「岩手県移住交流体験ツアー」が開催され、12名の参加者に町の支援制度と魅力を発信したところであります。

今後も、移住を検討されている方々が、当町への移住定住を希望されるよう、さらなる町の魅力づくりや移住定住支援策を検討し、県と連携しながら取り組みを進めてまいります。

【健康・福祉】

(地域福祉の推進)

次に、地域福祉の推進について申し上げます。

去る9月30日、町職員を対象に「障がい者就労施設の実例紹介会」を開催したところであります。

会では、「障がいを抱える方が地域で就労する意義について」をテーマとした講話と、釜石大槌地域の5つの就労支援施設から、各事業所の特色と実例を交えた取り組みや事業内容等をご紹介いただき、地域における障がい者就労の実態と各事業者が取り扱う商品や業務の内容、それらの発注方法等について理解を深めたところであります。

今後も、町が発注する業務の障がい者就労支援施設への優先調達の拡充を進めるとともに、障がいを抱える方が地域で安心して生活できるまちづくりの推進を図ってまいります。

(健康づくりの推進)

次に、健康づくりの推進について申し上げます。

去る10月16日、町の保健事業の拠点となる「大槌町保健センター」建設の安全祈願祭を執り行いました。現在は基礎工事を進めており、来年4月の供用開始に向け、遅滞なく工事を進めてまいります。

また、町民の皆様にしみを持っていただくため、来る12月9日まで、保健センターの愛称を募集しております。

【教育・文化】

(教育の充実)

次に、教育の充実について申し上げます。

大槌高校では、来年度の入学を希望する県外生徒を対象に、本年10月と11月の2回、「はま留学オープンスクール」を開催し、中学3年生3組、2年生2組、合計5組のご家族に来町いただいたところであります。

参加者は1泊2日の行程で、大槌高校生による「マイプロジェクト」の発表や、東京大学大気海洋研究所国際沿岸研究センターとの「はま研究会」の活動を体験したほか、大槌高校生が蓬萊島や町の復興状況等を説明しながら町内を案内しました。

宿泊は、来年度留学生の受け入れ先となる民宿に泊まり、実際の生活を体験していただきました。親元を離れた留学生が、安心して生活を送れるよう受け入れ体制を整えてまいります。

また、去る11月5日には大槌高校の1年生が役場を訪れ、「三陸みらい探究」大槌町役場フィールドワークを実施したところであります。昨年に引き続き2回目となる今回は、「シミュレーションおおつち 2030」という教材を利用し、生徒一人ひとりが、役場職員に質問し理解を深め、また職員も改めて事業について考えることができ、大変良い機会となりました。

来年2月には、生徒が大槌の仮想部局長になり事業を組み立てた10年後の町の姿を、大槌の未来像として発表する予定としております。

(社会教育振興及びスポーツ・文化について)

次に、社会教育振興及びスポーツ・文化について申し上げます。

去る 11 月 14 日、岩手県立杜陵高校の佐々木勝宏氏を講師としてお招きし、第 19 回ふるさと大槌学講座を開催したところであります。

「江戸時代中後期の大槌の繁栄と信仰」と題した講話では、町の文化財指定には至っていないものの、その候補となり得る「仏像や美術工芸品」等の紹介がありました。

また、去る 11 月 28 日には、大槌町有形文化財指定書交付式を行いました。今回の指定は、江戸時代から昭和初期までにおいて、吉里吉里の前川家に伝承された 965 点にもものぼる古文書類であり、平成 7 年の「前川善兵衛寄進石灯籠等」以来の有形文化財の指定となります。

今後につきましても、未指定となっている文化財の積極的な調査を行い、町の貴重な文化財の保護に努めてまいります。

(震災伝承について)

次に、震災伝承について申し上げます。

災害の記憶を風化させない事業基金条例の一部改正につきましては、観光船はまゆりに関するこれまでの経過と今後の方向性について、地権者に説明するとともに、去る 10 月 25 日に住民説明会を開催したところであります。

また、去る 11 月 20 日開催の第 7 回臨時会において、「災害の記憶を風化させ

ない事業基金条例」の一部改正が可決されたことについては、文書により、寄附者の皆様にご報告させていただいたところであります。

今後につきましては、来年度から展開することとしている「大槌町震災伝承プラットフォーム」のもと、「忘れない、伝える、備える」をコンセプトとした震災伝承活動の取り組みをより一層進めてまいります。

また、町全体の追悼の場として位置付ける「(仮称)鎮魂の森」の整備につきましては、去る11月22日に「追悼の場等について」の意見交換会を実施し、祈りの対象や応急仮設住宅に設置されていた地藏尊の受け入れ体制などについて、ご参加いただいた16名の皆様から、具体的なお意見をいただいたところであります。

今後につきましては、庁内のプロジェクトチーム会議や、ご遺族と有識者で構成する整備検討委員会での協議を重ね、基本設計等へ反映し事業を進めてまいります。

【安全・快適】

(災害に強いまちづくりの推進)

次に、災害に強いまちづくりの推進について申し上げます。

去る10月28日、防災知識の普及啓発と防災教育の一環として、大槌学園及び地域住民との協働で「避難所運営シミュレーション」を実施しました。シミュレーションでは、緊急地震速報と津波警報の発令を想定し、大槌学園の9

年生が中心となり、受付役や健康チェック役に分かれて避難所の模擬運営にあたりました。

また、去る11月7日には、町内一斉の避難訓練を実施し、吉里吉里地区では児童・生徒の登校時の発災を想定した訓練が行われたほか、源水地区では新たに町が緊急避難場所に指定した三陸沿岸道路小鎚第2トンネル管理用スペースへの避難経路の確認、概成工期が完了した大槌川・小鎚川水門では、県が水門の閉鎖訓練を行いました。

地震や津波は、いつ発生するか分かりません。また、全国的に風水害等の激甚化が危惧される中、来たる災害への対策を講じるとともに、引き続き地域防災力の向上と防災意識の高揚を図るための取り組みを進めてまいります。

(安全・安心なまちづくりの推進)

次に、安全・安心なまちづくりの推進について申し上げます。

去る9月25日、「大槌山田紫波線道路整備促進期成同盟会」による、土坂峠トンネル化に関する独自要望を実施したところであります。

町民の悲願である主要地方道県道大槌小国線土坂峠トンネルの早期事業化は、国土強靱化の観点からも「いのちの道路」として重要な路線であることを強く要望してまいりました。

今後も、国及び県へトンネル化の早期実現を強く要望してまいります。

(災害時における廃棄物の処理等に関する協定締結)

次に、災害時における廃棄物の処理等に関する協定締結について申し上げます。

全国的に頻発する自然災害の教訓を踏まえ、去る 11 月 30 日、一般社団法人岩手県産業資源循環協会と「災害時における廃棄物の処理等に関する協定」を締結しました。

災害時に発生する大量の廃棄物を迅速に処理することは、災害からの復旧・復興を推し進める上で極めて重要であり、この協定締結を契機に適時・的確に対処するための体制づくりをより一層進めてまいります。

以上、行政報告を申し述べましたが、本定例会では、条例の制定及び一部改正、補正予算案等をご提案申し上げます。

何卒よろしくご審議の上、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、行政報告といたします。